

授業科目名	ダンスワークショップ実習 A	担当教員	青木 尚哉
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1 年 第 2 クォーター		
講義内容	この授業の目的は、ダンサー（身体表現者）として芸術作品のクリエイションに関わる上で必要な想像力ないし技術を培うものである。振付家や演出家からの指示に従うだけでなく、表現者としてその指示の意味を理解・解釈し、考えを発展させる。＜夏季集中講義＞短時間で集中して、ダンサー（身体表現）の仕事ならびにダンスを巡る仕事に焦点をあてたワークショップを行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の多様性を理解し、安全な方法で身体運動や表現の可能性を広げることができる。 2. 様々な動きからダンスを生み出すことができる。 3. ダンサー（身体表現）に必要な諸能力を示すことができる。 4. 振付家や演出家と共同してアイデアを発展させる技術を修得できる。 5. 多様な身体性、身体技法、身体表現の学びを発展させて、インクルーシブデザイン等社会的な課題にも考えをめぐらすことができる。 		
授業計画	<p>本実習では、多様な身体性、身体技法、身体表現に触れる経験を通して、「身体と空間への解像度を上げる」ことを大切にしています。</p> <p>受講人数や受講者の理解度によって授業の内容を変更することがありますが、大きくは以下のような内容を考えています（本実習の詳しい内容については実習説明会であらためて説明します）。7～8 日間の集中講義（合計 48 時間）になります。</p> <p>◆基礎トレーニングでは、体の構造と動きを解剖学的に捉える練習を行い、徐々に空間へ意識を向けていきます。自他の身体の関係を設定し、身体を観察または内観し、情報として捉え活用、伝達、交換することで新たな動きや関係性を生み出していきます。</p> <p>◆メインワークでは、映像を使用する予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの映像を集めてもらいます（映画、テレビ番組、アニメ、ダンス映像なども含めて良いです。） ・映像から動きを取り出し、自らの身体で他者の動きをトレースする練習を行います。 ・日常の動きをトレースするところから出発して、段階的に複雑な動きに 		

	<p>挑戦し、最終的には踊りを立ち上げます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような要素が動きのもとになっているのか分析/言語化します。
事前・事後 学習	<p>劇場、テレビ、インターネットなどあらゆるメディアを駆使して普段からダンス含む身体表現に触れる時間を確保しておくこと。</p>
テキスト	<p>特に指定なし</p>
参考文献	<p>授業内で適宜紹介する</p>
成績評価 の基準	<p>平常点：70%（授業内での姿勢・提案・協働、その過程での掘り下げを評価する） 課題提出・内容：30%（実習中の課題*、実習終了後のレポートを評価する） *実習初日に説明する</p>
履修上の注意 履修要件	<p>全日程の参加を原則とするので、日時をしっかりと確認すること。 他の参加者との身体的接触を伴う場合があります。強く抵抗がある場合はご自身でよく考えた上で履修してください。</p>
実践的教育	<p>芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。</p>
備考欄	<p>実習の詳細については、実習説明資料および実習初日に説明します。 履修を希望する方は、履修希望書を提出してください。教育の質の保証および授業運営上（安全確保）の観点から、受講定員は20名とします。 定員を超える場合は、担当教員が履修希望書等を参考に選考を行います。 なお、履修希望書の未記入や締切後の提出は、選考に影響しますのでご注意ください。</p>